

## 編集後記

この編集後記を書いている2022年5月は、77年ぶりに明確な他国への侵略戦争が始まった年として世界史に刻まれることになるでしょう。さらにこのことは、しばらく前から続く自然環境の急激な変化や、コロナで社会が激変する中で、それらの課題にうまく対応できない私たちの暮らしや日本社会の仕組みの問題解決に一層困難な課題を突きつけているとも言えます。

こういう課題解決を考えると、分析的に見えてくる一つ一つの問題とその解決だけではなく、総合的に考える必要がある点に気が付きます。気候変動もコロナも侵略戦争も、バラバラに存在する問題ではなく、複雑に絡まりあっていることに気づかざるを得ません。つまり、問題解決には総合的な戦略で考える必要があります。この点は、仕事（職業）を考える上でも重要なポイントの一つで、仕事は総合的な営為と考えないと目的を達せられない可能性が高くなります。この点は、科学研究がひたすら分析的に細かな専門的部分を追求していくことでも成り立ちうるのとは大きく異なります。

その意味で、「職業教育研究」は、分析的な側面と同時に、一定の問題解決も想定するという複雑な構造を持つと考えてよいでしょう。今回は、そんな職業教育の持つ複雑な課題の一端について、滋慶教育科学研究所の志田秀史先生に「若年者の就労問題に対応した専門学校に関する政策変遷と研究課題」というテーマで、巻頭論文をお願いしました。とても丁寧な分析と課題を示していただき今後の研究に役立つのではないかと考えています。

その他、投稿論文も、原著論文が1件、症例事例研究2件、研究ノートが7件と、全部で10件の職業教育研究開発センター研究員の皆様を中心に投稿がありました。コロナ禍などで、日々新たなオンライン教育などの授業方法の開発や教育実践等に追い回されていて、改めて研究論文の作成に取り組める状況ではないのかもしれませんが、少し数が減ってきているのが気になります。

新しい状況に取り組まなければならない現代社会では、日々の教育活動も丁寧な研究をベースとして行わないと、前に進めなくなっています。その様な意味で、日々の研究成果をとりあえずの研究ノートにでもまとめてご報告いただけると、他の方々にも役に立つのではないかと思います。本誌がそのような活用されることを願っています。

(編集委員長 川延 宗之)

本号より事務局担当の一人に加わりました。これまでは大学にて、介護福祉や高齢者福祉について研究してまいりました。そのため、「職業教育研究」については全くの初心者ですので、皆さまからのご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

本誌のように様々な分野の論文が一同に掲載されている学術誌は他に類をみないと思います。様々な分野の論文を読むことによって、自分の専門を振り返るきっかけになる（手前みそながら）とても素晴らしい学術誌であると思いました。そんな素晴らしい本誌が、社会の更なる発展に寄与できるような学術誌となるよう祈りつつ、ご投稿を心よりお待ちしております。

(事務局 内田 和宏)

— 「敬心・研究ジャーナル」査読委員一覧（50音順：敬称略）（2022. 6. 1現在） —

|        |        |       |        |        |        |
|--------|--------|-------|--------|--------|--------|
| 阿久津 撰  | 安部 高太朗 | 天野 陽介 | 伊藤 正裕  | 稲垣 元   | 井上 修一  |
| 今泉 良一  | 上野 昂志  | 王 瑞霞  | 大川井 宏明 | 大谷 修   | 大谷 裕子  |
| 岡崎 直人  | 小川 全夫  | 奥田 久幸 | 小澤 由理  | 小関 康平  | 川廷 宗之  |
| 菊地 克彦  | 木下 美聡  | 近藤 卓  | 坂野 憲司  | 佐々木 清子 | 佐々木 由恵 |
| 鳶末 憲子  | 島津 淳   | 白川 耕一 | 白澤 政和  | 杉野 聖子  | 鈴木 八重子 |
| 高塚 雄介  | 武井 圭一  | 東郷 結香 | 永嶋 昌樹  | 中西 和子  | 西村 圭司  |
| 橋本 正樹  | 浜田 智哉  | 原 葉子  | 町田 志樹  | 松永 繁   | 水引 貴子  |
| 南野 奈津子 | 宮嶋 淳   | 八城 薫  | 安岡 高志  | 行成 裕一郎 | 吉田 志保  |
| 吉田 直哉  | 渡邊 眞理  |       |        |        |        |

— 「敬心・研究ジャーナル」学校法人敬心学園 編集委員会（2022. 6. 1現在） —

委員長 川廷 宗之 （職業教育研究開発センター、大妻女子大学名誉教授）  
副委員長 阿久津 撰 （日本児童教育専門学校）  
委員 小泉 浩一、黒木 豊域、浜田 智哉（日本福祉教育専門学校）  
内山 結城、柴田 美雅（日本リハビリテーション専門学校）  
王 瑞霞、天野 陽介（日本医学柔整鍼灸専門学校）  
有本 邦洋 （東京保健医療専門職大学）  
水引 貴子、木下 美聡（客員研究員）  
事務局 内田 和宏、杉山 眞理（職業教育研究開発センター）

## 〈執筆連絡先一覧〉

若年者の就労問題に対応した専門学校に関する政策変遷と  
研究課題

滋慶教育科学研究所 職業人教育研究センター長

志田 秀史

〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6-7-5 滋慶ビル2F

E-mail: h-shida@jesc.org

Homepage : <http://www.jikeigroup.net/laboratory/outline/index.html>

生活支援記録法 (F-SOAI) の6項目を用いた医療ソーシャル  
ワーカー経過記録の課題分析

国際医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科 高石 麗理湖

E-mail: mariko\_i\_1228@yahoo.co.jp

インクルーシブ・インクワイアリー・アプローチの紹介

— 国際的な実証実験からのレビュー —

聖ヶ丘教育福祉専門学校 古谷 淳

E-mail: furuya@hijiri.ac.jp

欧州における子育ての脱家庭化と家事分業モデルの諸相

— 1990年代から2000年代にかけてのジェンダー平等と子育て支援における考察 —

聖ヶ丘教育福祉専門学校 古谷 淳

E-mail: furuya@hijiri.ac.jp

性的マイノリティの生きづらさの意味

— カミングアウトから捉える支援のあり方 —

職業教育研究開発センター客員研究員

秋田看護福祉大学看護福祉学部 山田 克宏

E-mail: no2fukusi@gmail.com

津守真における「省察」する保育者の反専門職的特質

大阪公立大学 吉田 直哉

〒599-8531 堺市中区学園町1-1

大阪公立大学現代システム科学域教育福祉学類

E-mail: naoya\_liberty@yahoo.co.jp

〈リスク〉としての少子社会

大阪公立大学 吉田 直哉

〒599-8531 堺市中区学園町1-1

大阪公立大学現代システム科学域教育福祉学類

E-mail: naoya\_liberty@yahoo.co.jp

促通を目的とした運動プログラムの有効性 (その2)

— コロナ禍におけるの大学対面授業の実践例 —

早稲田大学 非常勤講師 包國 友幸

鍼が顔面の皮膚に与える影響の研究2

— 刺鍼方向によるシワの変化 —

学校法人敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校

遠藤 久美子

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-18-18

Email: endo@nihonisen.ac.jp

社会生活力の「評価」等に関する国内論文レビュー

— 社会生活力及び社会リハビリテーションの評価方法に着目して —

学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 小泉 浩一

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-16-3

E-mail: koizumi@nipku.ac.jp

保育研究法としての現象学的アプローチの有する諸課題

— 榎沢良彦における「対話」概念の検討を通して —

埼玉県立大学 田口 賢太郎

E-mail: taguchi-kentaro@spu.ac.jp